とある学生の完全模倣

漆黒のK

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
とある学生の完全模倣

【Ｎコード】
Ｎ６７０１Ｑ

【作者名】
漆黒のＫ

【あらすじ】
とある学生、佐々岡　恭二はちょっと特殊な能力の持ち主。
そしてとある日銀行へ行った。それが始まりの合図だった。

プロローグ

きみは、学園都市の都市伝説を知っているか？
代表的な例をあげると

脱ぎ女

どんな能力でも消せる能力者

などが有名だ。だが僕は、

能力を真似できる能力者について語ろうと思う。

これはとある少年の物語だ。

俺は平凡？な高校生。まあ周りと違う所は、ちょっと能力が特殊ってとこかな。
今日はお金がないんで銀行に行ったのだが、

「なぜに？」
閉まっていた。
だから俺は、とある学生友達を見習ってこう叫んだ
「不幸だーーーーーーーーー！！」
それが合図だったのかいきなり銀行のシャッターが爆発した。

銀行強盗！？

シャッターが爆発した。俺は、あまりの轟音に耳を塞いだ。
すると中から三人組の男が出てきた。
「？」
正直訳が分からなかった俺はその姿を呆然と見ていた。
すると何もない空間から人がいきなり現れて、

「ジャッジメントですの。」
と言い放った。
・・・確かあれは常盤台の制服・・・。

・・・あぁ！じゃ俺無理に入って行くことはないな。
そう俺は決めつけ俺はその場を離れようと背を向けたときに、
「どけぇ！邪魔だ！」
と銀行強盗の一人が俺を押し退けて近くにあった車に走っていった。
「痛ってー。・・・ぁの野郎、地獄を見たいらしいな。・・・そこまで見たいんなら見せてやるよ！！！」
そうぶつぶつと言っている間に男は車に乗り、発進させていた。
「地獄へドライブに逝ってきな！「フレアガン」！」
そういって指先から放たれた炎はエンジンをブチ抜き、車を爆発させた。

補導という名の拷問！？

「えーと、被害は車一つ大破、その爆発によりその周辺が破壊、仕舞には犯人におお怪我。ーーーどうしてくださいますの？」
はい。こちら恭二です。
ただ今、胸ピッタンの女の子に説教されてます！
「は？ーーーどうしろ、と言われても。やっぱり弁償ですか？」
「いえいえ、学生さんでしたら弁償なんｔ「な、なら！」反省文、と言う形で。」
と言うとみた感じ五枚の紙が渡された―（裏もビッシリと）。
「は！？もしやこの量を？」
俺がツインテールの子に目を向けた。するとツインテの子は恐ろしい笑顔を向け簡潔にこう言い放った。
「はい♪」

ーーーーー

あれから何時間紙と格闘しただろうか。反省文は真っ黒に染まっていた。俺の心は真っ白だがな！・・・どうよ
「はぁ～やっと終わりましたわね。」
そう俺に言い時計を見た。
「あら、もうこんな時間ですのー！くっ！こんな男のためにお姉様とのーーー。」
なに言ってるかは聞こえんが、触れん方がいいだろう、そう判断した恭二はそそくさとこの危険地帯から脱出しようとしたのだが
「あら、何処に行きますの？」

止められた。
振り返ると何時の間にやら俺の手を掴んでいた。

赤い眼

「送っていきますわ」
・・・それは俺の台詞なのでは？
そういう目線を送ると
「あぁ、ご心配なく。私ーーー空間移動者ですから」
「あぁ、たしかそう、ーーー」
そんな言葉を残しその部屋から瞬間移動で退席した。

「着きましたわよー、ってあれ？」
返事がない。ちゃんと掴んでるのに・・・そう思い隣の男を見た。
すると男はとっっっっってもグッタリしていた。
「がああああぁぁぁぁあ・あ・・」
「あ。・・・く、空間酔いよいですわね。おそらく・・・じっとしてなさいませ。すぐによくなりますわ。」

空間酔い事件から三分後。

「うぅ～やっと、良く、な、ったかな？」
そう言い顔を上げた。
するとそこには犯人の姿が。
その瞬間運悪く犯人？と眼が合った。
（っ！ーーーやっべぇ！見られたか！）

・・・無駄と知りながらも”右目”を隠しながら見ると、目を大きく見開いた犯に・・・女の姿が。
重々しい空気が流れた。そして、震えていた彼女の唇からやっと言葉がでた。
「あなた・・・その眼・・・！」
「っ！！！」
俺はうたれたように走り出した。
後ろからは制止の声が聞こえたが聞かなかった。
右眼をーーー赤い眼を隠しながら。

赤い眼（後書き）

赤い眼ーーーなにが隠されているのでしょうね。

・・・まだ、明かしませんよ。・・・多分

主人公設定　（表）（前書き）

本当の主人公の能力とかではないぜい

主人公設定　（表）

ーーーーー
佐々岡　恭二　（ささおか　きょうじ）
歳・性別　１６歳・男
容姿　黒髪　双眼黒
能力　発火能力者　Ｌｖ．４
巷では、［火炎指銃　（かえんしじゅう）］の二つ名で有名。
ーーーーー

「・・・・・」
私こと黒子は、夕べ送った青年のことを調べていた。なぜ調べていたかというとやはり昨日のあの眼が気になったからである。
見間違え。そんなことも考えてはいたが、そうするとあの反応の説明ができない。
「黒子～遊びにきたよ～。」
バチン！そんな効果音の後に扉が開く音が聞こえた。
「お姉様…どうなされたので？」
「えーと黒子が昨日何かおかしかったから何かあったのかと…ってその資料って…アイツと一緒にいる奴の？何で黒子が見てんの？」
「アイツって誰のことでしょう？」
「あ、あぁ。あのバカのことよ」
（バカ…上条当麻のことね。みんな分かるかなー？）
その後、私はお姉様に全部話した。
「右目？たしかいっつも会ったとき右目に眼帯してたような気が」

「へ？それじゃあ人違いなのでは？」
「いや、たしか前会ったとき、火炎指銃って呼ばれてたから。」
「じゃあ何であの時は眼帯を付けていなかったのでしょう」
また、謎が増えた

主人公設定　（表）（後書き）

変なところでまた切れた。

……ＰＳＰは嫌いだーーーーー！！！！

はっ！落ち着かないと！

主人公設定　ネタバレ含む（前書き）

受験まで後十日・・・
がんばらないと。

主人公設定　ネタバレ含む

佐々岡　恭二（ささおか　きょうじ）

容姿　双眼黒一（ただし、能力コピー時、能力を見極めるとき右目が赤くなる）

体重　６４ｋｇ

身長　１７８ｃｍ

身体能力　学園都市に入る前に空手、柔道、ボクシングを習っていたため能力ろ使わなくてもそれなりに強い。

剣等の使い方は、昔ある人物に教わっていたためとても強い。

超能力　完全模倣（パーフェクトコピーイング）

能力は次第に発覚一（すると思う・・・。）

性格　あまり戦うのは好きではない。が売られた喧嘩は殆ど買う。お人好し。だが上条と殆ど一緒に行動するためほとんどフラグは立たない。

都市伝説の「赤い眼のマルチスキル」または、「黒眼帯の獄炎者」である。

主人公設定　ネタバレ含む（後書き）

まぁ、こんな感じです。

それと受験勉強しないといけないので更新できないかもしれません。

すみません。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6701q/

とある学生の完全模倣

2011年10月8日14時22分発行